

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：32626

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25510013

研究課題名(和文) 医療現場のArt and Health—国内の実態解明を目指した実践的研究—

研究課題名(英文) Art and Health of the medical scene: Practical research to elucidate actual condition in Japan

研究代表者

山野 雅之 (YAMANO, Masayuki)

女子美術大学・芸術学部・教授

研究者番号：70191369

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：日本におけるArt and Healthとして行われているアート活動の特徴や課題を明確にし、その問題を明らかにした。データベースを構築する目的で文献調査を実施し、現時点で国内で入手出来る紙媒体の活動報告(学術論文・研究報告・学術図書)を可能な限り情報収集し、整理を行った。また、日本の医療施設におけるArt and Healthの実態調査を目的として、3年間で、計8カ所の医療関係施設で、医療従事者と教員にインタビュー調査を実施し、書き起こしたテキストデータに対して質的・量的分析を行った。最後に、アートプロジェクトを医療施設および福祉施設において実施し、その分析も行った。

研究成果の概要(英文)：In this study, we would aim to illustrate how art and health activities (AHAs) were implemented into Japanese hospitals and what kind of problems they had with introducing them to their hospitals. To build a database of AHAs in Japanese hospitals, we searched literature described on the art or design activities in hospitals or healthcare institutes to a maximum extent, and sorted them. Furthermore, we conducted interview research to persons involved in the AHAs in eight hospitals; a physician, nurses, head nurses, clerical workers, childminders, school teachers and a professor. Quantitative text analysis and qualitative approach for the transcript of those interviews revealed the characteristics and problems with implementation of AHAs in each hospital. Finally, we carried out AHAs in a hospital and welfare facilities for practical researches.

研究分野：ヒーリング・アート、ヒーリング・デザイン

 キーワード：Art and Health アートと病院 アートと医療 アートとケア 芸術と病院 芸術とケア 芸術と医療  
 アート活動と医療

### 1. 研究開始当初の背景

診療やケアの場面における芸術およびアート活動は「Art and Health」とよばれ、健康 (health) と診療・ケア (healthcare) の一体化を促進する役割を持つといわれる。また患者・障害者・職員・訪問者・介護者・地域住民等が創造的な活動に関わることを通じて人間性を回復し、健康を実現していくプロセスでもある (Peter Senior, “Art and Health” International Academy for Design and Health, 2000)。

日本の Art and Health は、1970 年代に福祉の分野 (例: 財団法人たんぼぼの家が主催する「わたぼうしコンサート」、「エイブルアート」等) で始まった。医療の分野では、近年、ようやく、小児病院や小児病棟をはじめ成人の医療施設でも活動が増え、施設の建築にもアートやデザインの視点が多く取り入れられるようになってきた。しかし、医療現場の活動は比較的新しい取り組みであるため、実践報告は散発的に見られるものの、その数は海外 (北米、豪、欧) と比較して圧倒的に少なく、かつ網羅的な調査・研究の報告はなく、実践の評価も難しいという現状がある。加えて、医療施設で新たにアート活動を導入しようとしても、そのための課題やノウハウが明らかにされておらず、各施設や芸術家等の試行錯誤と努力に頼らざるを得ない。こういった現状から、海外において Art and Health 活動の結果として期待されている表現活動を通じた人間らしい医療の実現、快適な療養環境や安全な職場環境の実現、被雇用者満足度の向上や診療アウトカムの改善

が、国内でどの程度実現されているのかについても明確にはされていない。これらの事項は、診療やケアの質を向上させる上で極めて重要であるため、今後、国内で普及が予測されるアート活動の実態や課題の把握は急務であり、Art and Health を医療施設に導入する際の問題や要因の特定、および日本の文

化や医療制度の実情に合わせた対策の考案が必要である。以上のような問題意識に基づいて、本研究では医療現場における活動に焦点を当て、人間性を中心に据えた診療やケアの実現や向上を目指す Art and Health の、国内における実態を把握し、課題の解明を目指す。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、近年、国内の医療や福祉の現場で広がりつつある Art and Health といわれるアート活動の実態を調査し、その特徴および課題と要因を明らかにすることである。今日的な Art and Health とは、医療機関・福祉施設・地域におけるコミュニティの成員達が、アート活動を通じて人間性を回復するプロセスである。欧米の研究では、このような営みからよりよい療養環境や質の高い診療・ケアの提供、患者安全や被雇用者満足度の向上、コミュニケーションの促進や診療アウトカムの改善が達成できるとされているが、国内の活動に関してはこれらの点に関して未だ明らかではない。本研究では医療現場の活動にフォーカスして今後の日本における Art and Health のあり方を探索し、日本の診療・ケアの実情に合わせた普及の方法論や対策を検証する。

### 3. 研究の方法

本研究では、第1段階として、まず国内の Art and Health の活動に関する文献調査・情報収集を行い、次に医療機関・福祉施設・地域の代表的な事例について研究メンバーによる現地調査を行って、調査結果をデータベース化する。第2段階として、第1段階で得られた結果を基に数回の研究会を開催し、国内における Art and Health 特徴・課題・問題・要因について検討する。第3段階としては、第2段階で特定された要因に対する対策としてプロジェクトを企画、複数施設にて実施し、仮設の検証と方法論の修正を行う。1~3段階

で得られた成果は出版やホームページ開設などを通じて随時公表し、他施設で利用可能な知識やノウハウのリソースとする。

(1) 日本の医療現場における Art and Health としてのアート活動の網羅的な実態調査

現時点で、国内の医療施設で実施されているアート活動の実態を可能な限り把握し、データベース化を行う。

(2)日本の医療現場における Art and Health の特徴の明確化と普及を目指した実践的な課題の抽出および要因の分析

(1)のデータベースを基に、海外における今日的な Art and Health の目指す「コミュニティの成員が参加するアート活動を通じて、人間性を尊重した質の高い診療やケアを実現すること」が、国内においてどの程度実現されているか評価する。

日本の医療機関における Art and Health の特徴を明らかにし、活動を導入する際に問題となる課題の抽出とその要因分析を行う。

(3)日本独自の Art and Health 活動の方法論開発と検証のためのパイロットプロジェクトの実施

日本の文化、医療制度、医療施設の実情に合った実践的な方法論を開発。

パイロットプロジェクトを企画・実施。

(仮説)を検証し、修正を加えて方法論の最適化を目指す。

#### 4. 研究成果

(1) Art and Healthに関する文献調査とデータベース化□

日本における Art and Health として行われているアート活動の特徴や課題を明らかにし、その問題と要因を明らかにしていく為のデータベースを構築する目的で、文献調査を実施し、現時点で国内で入手出来る紙媒体の活動報告(学術論文・研究報告・学術図書)を可能な限り情報収集し、整理を行った。

調査目的:日本におけるアートと医療に関連する研究を把握するために文献調査を行った。

□調査対象:アート系の検索ワード「アート」「アート活動」「芸術」と医療系の検索ワード「病院」「医療」「ケア」をタイトルおよび特集名に含む日本国内で発表された研究論文や雑誌記事および書籍を調査した。調査対象期間を1970年代から2015年とした。

調査方法: CiNii や Google Scholar などインターネットの検索エンジンによるキーワード検索で行った。

検索方法: アート系と医療系の検索ワードを組み合わせ「アート・病院」、「アート・医療」、「アート・ケア」、「芸術・病院」、「芸術・ケア」、「芸術・医療」、「アート活動・医療」、「アート活動・医療」、「アート活動・ケア」9通りのパターンを用いて検索した。三年間に渡る文献調査により、以下のことが明らかになった。

文献調査は1970年から2015年までの45年間についてアート系の検索ワード「アート」「アート活動」「芸術」と医療系の検索ワード「病院」「医療」「ケア」をタイトルに含む日本国内で発表された研究論文や雑誌記事および書籍を対象にした。その結果、275本が上がったが、その多くは論文や記事であった。書籍は全体の7.6%に相当する21冊で、1冊を除き阪神大震災後に書かれている。

文献調査で挙げた個々のキーワードは、調査対象者によって、その捉え方や定義づけに対する認識の差異や解釈の特色が見られた。キーワードの設定については、例えば、アートとケアとすると、芸術療法、作業療法、音楽療法の分野と検索結果が重なった。さらに、ケアを癒しやヒーリングと読み替えてキーワード設定をすると、医療分野ではなく、宗教的な意味合いが帯びてくる検索結果となり、境界線があいまいになっていることが現状として明らかになった。Art and Healthの研究では、医療とアートの関係を対象として捉えているので、調査項目の選択とその絞り込みに苦心した。

Art & Health は国内ではまだ未成熟な専門分野であるため、医療現場のアートに関する文献リストが見当たらず、今回作成した文献データが先行研究の基礎調査資料として役立つことを望んでいる。

## (2)日本の医療現場におけるアート&デザイン - インタビューによる意識調査

日本の医療現場におけるアート&デザインの現状を把握するべく、病院でのアート活動や院内環境デザインの改善などの経験を持つ医療スタッフや大学教員に対してインタビューによる意識調査を行った。本研究では、病院でのアート&デザインを取り入れた経験を持つ医療スタッフや大学教員にインタビューを行うことで、日本の医療現場におけるアート&デザインに対する意識を調査することを目的とした。医療現場での芸術活動が導入されている病院や大学の関係施設の中から、関係者の同意を得られた計8施設を訪問した。インタビュー実施に際しては、調査の目的および守秘義務に関する説明を行った後に同意を得た。インタビューは半構造化面接で行った。インタビュー調査の内容は、対象者の役職、所属する病院や大学の特徴、そして施設でのアートやデザインの導入経験やそれにより生じた人・もの・ことの変化、それらを通して病院にとってのアートやデザインをどのように考えているのかという問いに加えて、今後の目標や夢についても聞き取りを行った。調査の結果、日常的に美術や芸術に携わる機会の少ない一般の医療関係者にとっては「アート=絵」と捉える傾向が見られた。その一方で、病院や福祉施設で「アート活動」を積極的に取り入れている人たちにとっては、アートは絵画だけでなく、音楽、演劇など幅広く捉えていることが明らかになった。しかし、アートに携わる業務の担当者がある病院は国内では稀であることも同時に明らかになった。全国に数カ所しか存在していないのが現状である。こうした病院では、アートが周囲の環

境の質や、人と人のつながりを変化させることを意識して、そこにどのような形でアートが関わっていくかを模索している。

病院の理念と病院建築・空間の思想が通底した上で運営されている病院では、様々なジャンルの文化芸術活動が旨く展開されていく可能性が高くなる。理念を軸として職員をはじめとする人々の創造性が引き出され、波及していく様が事例の病院に表れていた。

また、プロデュース力を活用し、いくつかのアート活動の展示をまとめて訴求力のあるポスターをデザインするなど多角的な情報発信につなげ、報道の媒体に取り上げられる機会を得る取り組みも報告された。

## (3)日本独自のArt and Health活動の方法論開発と検証のためのパイロットプロジェクトの実施と検証

日本の文化、医療制度、医療施設の実情に合った実践的な方法の検証するため、パイロットプロジェクトを企画・実施した。

現在の日本の医療や福祉現場の実情にあったアートによる医療環境の改善の手法をプロジェクトの実践の中で検討した。

### 「東京都立小児総合医療センター病棟連絡通路ヒーリング・アートプロジェクト」

2013年、女子美術大学アート・デザイン表現学科ヒーリング表現領域と東京都立小児総合医療センターとの連携で、小児総合医療センター病棟連絡通路壁面の壁画を女子美術大学の学生が制作した。完成した作品は、設置方法、設置に関する安全管理について約1年間の期間をかけて十分に検討し、2014年小児病棟6階、7階連絡通路壁面に設置し、医療関係者に対して、設置されたアートに関するアンケート調査およびインタビューによる環境意識調査を行った。

「医療施設等との連携によるワークショッププロジェクト」武蔵野美術大学の学生と医療施設等が連携して、地域の中の病院という視点でワークショップに取り組み、「異才た



たちのアート展 2015 & 第 41 回障がい者作品  
展 作品集、2016 年 3 月 25 日、154 ページ

山野雅之、山口悦子、齋藤啓子、鈴木理恵  
子、宮坂真紀子、美学出版、医療現場の Art &  
Health-国内の実態解明を目指した実践的研  
究- 報告書、2016 年 3 月 29 日、46 ページ

山野雅之、美学出版、女子美術大学 北里  
大学病院ヒーリング・アートプロジェクト制  
作の記録、2016 年 3 月 25 日、21 ページ

山口悦子、森口ゆたか、山野雅之、齋藤啓  
子、坂倉杏介他、株式会社生活書院、アート  
ミーツケア業書 1 病院のアート 医療現場  
の再生と未来、2014 : 248 ページ

〔その他〕  
ホームページ等  
女子美術大学アート・デザイン表現学科ヒー  
リング表現領域研究室ホームページ

<http://joshibi-healing.net/>

## 6 . 研究組織

### (1) 研究代表者

山野雅之 (YAMANO Masayuki )  
女子美術大学・芸術学部・教授  
研究者番号 : 70191369

### (2) 研究分担者

山口悦子 (YAMAGUTHI Etsuko )  
大阪市立大学・医学 ( 系 ) 研究科・准教授  
研究者番号 : 60369684

齋藤啓子 (SAITOU Keiko )  
武蔵野美術大学・造形学部・教授  
研究者番号 : 20147903

鈴木理恵子 (SUZUKI Rieko )  
女子美術大学・芸術学部・准教授  
研究者番号 : 60635001

### (3) 研究協力者

西田 朗 (NISHIDA Akira )  
坂倉杏介 (SAKAKURA Kyosuke )  
宮坂真紀子 (MIYASAKA Makiko )